大藏神社

摂末社巡拝⑩

倉敷市五日市３９４　祭神　日本武命

つるさき

発行所
鶴崎神社
早島町早島2220
〒701-0304
TEL FAX 482-0097
URL www6.ocn.ne.jp/~turusaki/

大藏神社は、日本武命（やまとたけるのみこと）を祭神とし、五日市地区一二五戸の氏神として祀られている。

日本武命は景行天皇の御子で、生まれた時から容姿端麗でその美男子ぶりは有名であった。天皇の命で熊襲建（くまそたける）を討った時、一番強い男の意である「タケル」の称号を与えられた。その後、ヤマタノオロチから得た天叢雲御剣（あめのむらくものつるぎ）（草薙剣）を倭姫命から拝受し蝦夷（えみし）や東国の征伐を行った。

由緒によると、日本武命が熊襲を討った後、船で大和へ向かう途中、吉備の穴海（阿知）で悪神を滅ぼした。命の偉業を讃え、永保二年（1082）丹生崎（にぶざき）に大藏神社を建立した。その後、天正年間（1573～1592）に現在の地に移転した。

享保十三年（1728）社殿を改築。昭和四十八年本殿屋根銅板葺き替え。平成十一年三月二十六日鶴崎神社に合併した。

神道Q&A

【質問】

神社にお参りすると必ず左右に狛犬がありますが、その由来や種類について教えて下さい。

【答え】

どこの神社でもお参りすると参道の両脇に一対で置かれた石製の狛犬を見かけます。神社境内のことを語るとき、鳥居と並んでまず思い浮かぶほど、狛犬は神社にとって一的なものとなっています。

普段、私たちは石製のものを多く目にしますが、このほかに、社殿内に置かれる木製や陶製のもの、また金属製のものなどがあります。

狛犬は高麗犬の意味で、獅子とともに一対になって置かれており、その起源も名称が示すように渡来の信仰に基づくもので、邪気を祓う意味があるといわれています。

昭和八年一月奉納
大寶神社国宝の狛犬
を模造

寛政五年九月奉納
鶴崎神社最古の
狛犬

神社にあるのが一的ですが、寺院でも稀に置かれることがあり、東大寺南大門のものが石製としては我が国最古のものとされています。また、宮中では几帳の裾に置く重石として木製の狛犬を用いていたようです。

神社によっては狛犬ではなく、狐や牛などの場合もあります。狐は稲荷神社、牛は天満宮に見られ、共にお祀りされている神様の神使（お使い）であるとされています。狛犬の表情は神社、あるいは地域によって実に多様です。

当社で最も古い狛犬は寛政五年九月（1793）と記された鶴崎神社本殿前に奉納されている一対です。また、昭和八年一月には拝殿石段奥に「倣国宝近江国大寶神社所蔵木彫高麗狗」と記された原福藏氏作による狛犬が一対奉納されており、現在の滋賀県大寶神社が所蔵している金箔が貼られた木製の狛犬（国宝）を模して作ったようです。

各地の神社を訪れた際に、いろいろな表情をした狛犬を眺めることもお参りをする楽しみの一つになるのではないでしょうか。

天満宮が見事竣工

奉祝祭に「い草太鼓」奉納

当社の飛び地境内神社として長津地区の氏子でお祀りしている天満宮の社殿が老朽化し、改築を余儀なくされたため、この度新たに改築し、見事竣工した。

（夏祭で賑わう天満宮）

平成十六年七月二十六日旧社殿を解体するに先立ち御神体を仮殿にお遷しする仮殿遷座祭（外遷座祭）が夕闇迫る中、厳かに執行された。

その後、氏子の協力により整地された敷地で八月二十日地鎮祭を執行し、建築に着手した。年内には殆ど完成し、平成十七年一月三十日にはいよいよ御神体を真新しい本殿にお遷しする本殿遷座祭（正遷座祭）が行われた。引き続き二月二十七日氏子が見守る中、竣工奉祝祭が行われ、早島い草太鼓の奉納や甘酒の接待で、社頭は大いに賑わった。また、七月二十四日には竣工後最初の夏祭りが執行され、氏子を始め近隣からも大勢の参拝があり、新しくなった社殿で無病息災を祈った。

秋祭の予定

秋季大祭　十月十五日（土）　午前十時～

総代、幹事により三十台の特殊神饌を神前にお供えします。夕方には「い草太鼓」・「如水（じょすい）太鼓」の奉納もあり夜店も出ます。

神幸祭　十月十六日（日）午前九時～午後二時三十分

午前八時の花火で執行の合図とします。午前九時の花火の合図と共に神幸行列が神社を出発します。各御旅所を巡幸して午後二時三十分頃に神社へ還御されますので、沿道に出て神輿を奉拝下さい。

「七五三」祈祷

七五三は子供の無事な発育を喜び、なお一層の成長を願って氏神さまに詣でる行事です。

古来は男女三歳で髪置きの祝い、男児五歳で袴着の祝い、女児七歳で帯解きの祝いを行ったことに由来します。

当社では十一月十五日を中心に七五三祈祷を奉仕致します。

十一月十二・十三・十五日に祈祷予定の方は予約はいりません。その他の日に祈祷希望の方は前もってご予約下さい。

責任役員・総代の就任

六月二十六日総代就任奉告祭の後、開催の総代会に於いて、責任役員及び総代の任期満了に伴う改選が行われた。

今回の改選では、総代の留任は十二人、新総代九人の合わせて二十一人と前総代長の栗坂一男氏が顧問にそれぞれ就任し、今年から四年間氏子の代表として神社の諸行事に参画し、お世話をする事となりました。

記

【責任役員】

総代 安原　昇［総代長］（塩津）
総代 藤原道明［副総代長］（早高南）
総代 小郷正廣（金田）
総代 眞鍋秀夫（帯高三丁割）
総代 永原耕吉［会計］（宮崎・下野）
総代 小橋健太郎（船本）
総代 湯浅純二（五日市）
総代 溝手昇司（下前潟・久々原・三軒地）

【総代】

安原益重［監事］（早高北）
渡辺正明［監事］（片田）
綱島　全（前潟）
今田　寛（弁才天）
小野玲一（西田）
大崎靖信（高須賀）
蜂谷基正（塩地・花町）
渡邉武志（長津）
澤田和之（無津）
渡辺　旭（市場）
竹内　寿（帯高南古開）
清田銀造（頓行・小浜）
大森英夫「後任者調整中」（中帯江）

【顧問】

栗坂一男

（就任奉告祭を終えた新総代）

祭事暦

十月十五日（土）［午前十時］
秋季大祭【供膳祭】
十月十六日（日）［午前九時］
神幸祭
十一月中　七五三祈祷
十一月二十三日（水）［午後二時］
新穀感謝祭
一月二日（月）［午後二時］
年始祭
毎月一日［午前九時］月次祭